

日本選手コメント【7月16日】

◆伊藤竜也選手(新日本工業) T52 100m決勝

「非常に残念でした。自分の走りができなかった。焦りもあったかもしれない。何があったか自分でも分からないくらい。緊張とかではない。予選と同じ走りができたら……。帰ってすぐに練習しないといけない。向かい風の対策など自分が避けてきたことを次に向けて練習していきたい。」

◆佐々木真菜選手(東邦銀行) T13 400m予選＝決勝進出

「自分の走りとしては58秒台に届かなかったことは悔しいですが予選突破したことは良かった。決勝ではもっと自分の走りが出せるように頑張りたい。向かい風でバックストレートで失速してしまった。(昨日の福永選手の金メダルを受けて) 同じT13クラスということで励みになりました。自分ももっともっとなんばらないと」

◆新保大和選手(アシックス) F37 円盤投げ決勝

「3位に入れなかったことは悔しいが自分のやれることはできた。しっかり自分の投げを意識して、今大会に調整していたことを確認して投げれたと思う。自己ベストがでてから他の選手の記録も気になり力んで投げ急いでしまった。そのあたりはまだ課題が残る。」

◆酒井園実選手(ISFnet) T20 走り幅跳び決勝

「東京パラリンピックの時もあと1センチのところでは出場できなくて悔しい思いをして昨年も怪我に悩まされて(今大会も)少し不安でしたが、初めての世界パラで4位以内に入ることが目標だったので良かったです。最後まで諦めず頑張りました。楽しんで跳ぶ事ができました。」

◆鈴木朋樹選手(トヨタ自動車) T54 800m予選

「まだまだ実力が足りない。今、ある力は出し切ったので後悔はない。スタートした時は着順とることを考えたが、もっとタイムを伸ばした方が良くと考えて切り替えて先頭をひいて走った。自分の力としては東京パラよりも低下している気がするので、基礎から原点に立ち返って色々なものを戻さないといけないかなと思う。」

◆山崎晃裕選手(順天堂大学) F46 やり投げ決勝

「この舞台は自分に勝つために来たので、とりあえず自分のやるべき技術を出せば自己ベストは出せると思ったのでとりあえずはホッとしている。本当は3投目以内に自己ベストを出したかったが力みが出た。5年ぶりの自己ベストということで記録が伸び悩んでい

て地道にトレーニングを積み重ねてきた。諦めないでやってこれたことが良かった。東京パラリンピックと比べて緊張した。自己ベストが出ていなかったことやプレッシャーもあったかもしれない。順位やメダルは意識すると余計な力が入ってしまうので意識はしなかったが終わった後に悔しさがでた。」

◆高橋峻也選手（トヨタ自動車）F46 やり投げ決勝

「悔しくて情けない投てきをしてしまった。自分の投げが出来なかった。緊張したというよりも力んでしまって上半身だけで投げってしまった。突っ込み気味になっていたので、最後の5、6投目は我慢して投げたが、これを1、2投目に投げないといけなかった。海外の選手と比べても技術的な部分で劣っていると思うのでまだまだだなと思った」

◆小野寺萌恵選手(あすなろ屋羽場店) T34 800m決勝

「スタートはうまくいけた感じがしたが、オープンレーンに変わる時に内にうまく入れなかった（7コーススタートで）。この大会で勉強しなくてはいけないこと、練習しないといけないことを学べたので次（神戸）に向けて頑張りたい。」

◆ユニバーサルリレー 予選＝決勝進出

1走 澤田優蘭・塩川竜平ガイド（エントリー）

「(自分自身では) 今シーズンでは一番良い走りだったと思う。47秒台をだしたかったのでタイム的には悔しい。」

2走 三本木優也選手（京都教育大学）

「今大会初の出場でしたが、風も追っていて、調整もよくできて良い走りができたと思う。」

3走 高松佑圭選手（ローソン）

「まだまだ決勝ではスピードが上がるので、負けないように頑張ります。」

4走 生馬知季選手（GROP SINCERITE WORLD-AC）

「昨日のレースの疲れが走りにでてしまった。カナダに追いつけなかったが、決勝に行けたので、少し休んで臨みたい」

◆ユニバーサルリレー決勝 金メダル

1 走 澤田優蘭・塩川竜平ガイド (エントリー)

「本当にうれしいです。2019年から本格的にリレーメンバーとして組んでいくなかでなかなか届かなかった金メダルだったので本当に良かったです。」

2 走 辻沙絵選手(日本体育大学)

「予選で走った三本木選手と高松選手がつないでくれたので、(私も)絶対つなぎきるという思いで走った。リレーは本当に何があるか分からない。個人種目では取れなかった金メダルをみんなと協力して取れたことはうれしいです」

3 走 松本武尊選手(AC・KITA)

「予選で走った三本木選手と高松選手の気持ちを胸に自分も走りました。自分のタッチワークや走りは課題があるが金メダルを取れてうれしいです」

4 走 生馬知季選手 (GROP SINCERITE WORLD-AC)

「予選では自分の走りとして不本意だったけれど、決勝では良い走りができたと思う。その走りができたのは一緒に走ってくれたみんながつないでくれたおかげ。強い気持ちで臨めたことが良い結果になったと思う」